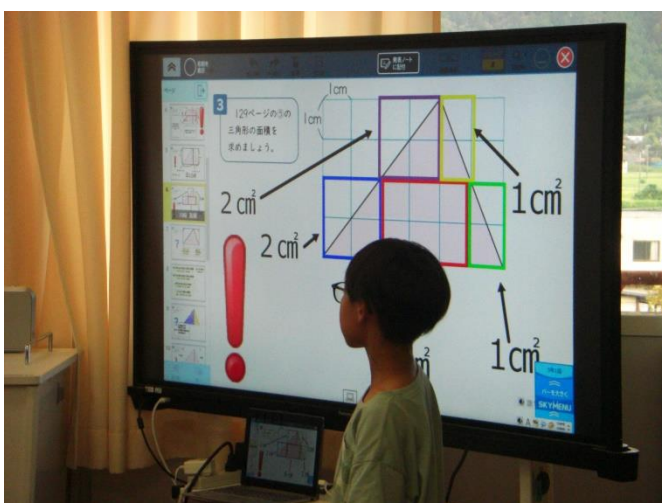


『心理的安全性』のある教室

28日6校時に算数教育研究大会に向けた公開授業を5年生が行い、市内の先生方に参観いただきました。



単元は算数「面積」。先生は子どもたちと前時の学習課題と今日の課題との違いを確認し、子どもたちの気づきや疑問から今日の学習のめあて「直角三角形の面積の求め方を使って三角形の面積を求めよう（はやく・簡単・正確に）」を子どもたちと創り上げ、学習をスタートさせていました。また、講師の関西大学初等部・古本先生から教えていただいた子どもたち一人ひとりが事前学習や学習の足跡を吹き出しに書き込む形でノートやタブレットにまとめておくことで、学習が進む中で自分の考え方の変容を自身で確認することができていました。

子どもたちの頑張りや成長に



参加者の皆さんからたくさんの感想を頂きました。指導者の先生にとっても「子どもたちが主体的に活動している」「だれもが学びに向かっていた」「一人の疑問をみんなで解決する学級が素晴らしい」など、子どもたちの高まりを実感できる嬉しい瞬間だったと思います。



私は講師の先生の『心理的安全性があるクラスですね』という言葉が心に残りました。

『心理的安全性』という言葉は、2016年にGoogleが「生産性が高いチームは心理的安全性が高い」と発表したことから、注目を集めるようになりました。Googleが成功し続けるチームに必要な条件を探る調査研究を実施した結果、「心理的安全性の高いチームのメンバーは、離職率が低く、他のチームメンバーが発案した多様なアイデアをうまく利用でき、収益性が高く、マネジャーから評価される機会が2倍多い」ということが判明したことから心理的安全性が注目されるようになりました。

では、学校や教室の『心理的安全性』とは、子どもが自分の考えや気持ちを安心してつぶやいたり、わからないと伝えられたり、だれもが発表できたりできるクラスと言えらると思います。心

理的安全性が保たれているからこそ、子どもたちの関係性が良くなり、友だちの発表した内容に触発されて新しいアイデアや疑問が生まれるなど、主体性や創造性が発揮され、対話的で深い学びが進んでいくと考えています。

「人とかかわりながら自分の学びを深める子」「自分のよさに気づき、自分も相手も大切にできる子」を本校のめざす子ども像に掲げていますが、今回の授業を通して先生方と子どもたち、また子どもたち同士の関係を大事にすることを改めて学ばせていただいたと感じています。